

3 専門調査会及びワーキンググループ

委員会の下に16の専門調査会を設置し評価を進めています。また、特定の分野について集中的に審議を行う必要がある場合には、ワーキンググループ（WG）を設置します。

専門調査会

企画等専門調査会	農薬第五専門調査会	かび毒・自然毒等専門調査会
添加物専門調査会	動物用医薬品専門調査会	遺伝子組換え食品等専門調査会
農薬第一専門調査会	器具・容器包装専門調査会	新開発食品専門調査会
農薬第二専門調査会	汚染物質等専門調査会	肥料・飼料等専門調査会
農薬第三専門調査会	微生物・ウイルス専門調査会	
農薬第四専門調査会	プリオン専門調査会	

専門調査会や
ワーキンググループ
に関する情報は

こちら↓



ワーキンググループ（WG）

栄養成分関連添加物WG
薬剤耐性菌に関するWG
食事由来の化学物質のばく露評価WG

評価技術企画WG
有機フッ素化合物（PFAS）WG
ビスフェノールA WG

4 2025年度の食品健康影響評価実績

食品健康影響評価とは、食品に含まれるハザード（危害要因）の摂取（ばく露）によるリスク（健康への悪影響が発生する確率と影響の程度）を、ハザードの特性等を考慮しつつ、付随する不確実性を踏まえて科学的に評価することです。食品安全委員会ではリスク管理機関（消費者庁、厚生労働省、農林水産省など）からの評価要請を受け食品健康影響評価を行ってきました。

2025年度に終了した件数 ➡ 計 **152** 件（発足した2003年からの累計 3481件）

● 添加物	5 件	● 農薬	88 件
● 動物用医薬品	13 件	● 微生物・ウイルス	1 件
● プリオン	1 件	● 遺伝子組換え食品等	30 件
● 肥料・飼料等	13 件	● 薬剤耐性菌	1 件

5 ビスフェノールAの評価を再開しました

ビスフェノールAについては、2008年に厚生労働省からヒトの健康に与える影響に関して食品安全委員会へ諮問が行われました。器具・容器包装専門調査会の下に設置したワーキンググループで審議し、2010年に「中間とりまとめ」を公表しました。

その後、米国や欧州などで研究や再評価が進められ、これまで課題とされてきた低用量ばく露による影響につ

いて、評価に必要な情報が入手可能となってきました。器具・容器包装専門調査会において、議論を再開すべきとの結論に至りました。

これを受けて、食品安全委員会は、2025年4月「ビスフェノールAワーキンググループ」を設置し、最新の科学的知見に基づくリスク評価を進めています。